

基本施策 F 2 高齢者が暮らしやすい地域づくりを進めます

主管課：高齢者すこやか支援課

個別施策

- F2-1 地域包括ケアシステムの構築を進めます
- F2-2 高齢者の社会参加を促進します
- F2-3 地域の支援体制を構築します
- F2-4 介護サービスの充実を図ります

ア 施策の目的

高齢者が生きがいを持ち、地域で支え合い安心して暮らしている。

イ 基本施策の評価

C c 目標を一部達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などがやや遅れている

ウ 成果指標（「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標）

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R1	R2	
高齢者ふれあい サロン箇所数	34箇所 (26年度)	↑	目標値	53	60	67	74	81
			実績値	48	53	57	61	
			達成率	90.6%	88.3%	85.1%	82.4%	
地域包括支援セン ターの認知度	—%	↑	目標値	34.0%	38.0%	80.0%	83.2%	86.4%
			実績値	73.6%	76.8%	80.3%	83.2%	
			達成率	216.5%	202.0%	100.4%	100.0%	

※「地域包括支援センターの認知度」の目標値については、平成29年度において、実績値が目標値を大きく上回ったことから上方修正した。実績値の平成28年度から平成29年度までの伸びが3.2%であるため、平成30年度の目標値は、平成29年度の実績値に3.2%を上乗せした80%、それ以降は年毎に3.2%を加えた値とした。

エ 評価結果の妥当性

本部会での議論を踏まえて考えると、評価結果については妥当であると判断する。

オ 審議会における政策評価に関する意見

- 高齢者ふれあいサロンについて、どの時期にどれぐらいの数のサロンが開所していて、どれぐらいの人数の方が利用しているという統計は、今後も重要な資料になると思うので、よろしくお願ひしたい。
- 交通費助成制度の利用券の交付率は93.5%という高い状況だと思うが、使用率についての数値があれば、活用されているということのいい指標になるのではないか。
- 高齢者ふれあいサロンについて、コロナ禍の中で開催できないという現実がある時に、どのように評価するのか考える必要がある。

カ 審議会における施策推進に向けた提案

- 高齢者ふれあいサロンについて、利用者が固定化しているのではないか。新型コロナウイルス感染症への感染の恐れがある現状では、高齢者ふれあいサロンに行くことに抵抗を感じている人もいると思う。ふれあいサロンに行かなくても分かるよう支援の情報が高齢者一人ひとりに届くようお願いしたい。
- コロナ禍においては、高齢者ふれあいサロンのサポーターは細心の注意を払い、また、サロンを開所することに対する強い不安を抱えながら運営している。開所、閉所の判断については、新型コロナウイルス感染症の感染状況をみながら、長崎市から指示をいただくとサロンサポーターの負担が軽減されるのではないか。また、感染拡大防止にあたっては、引き続きバックアップ体制をお願いしたい。
- 地域包括ケアシステムの構築に向けたサービスの記載について、基本的には高齢者に対するサービス提供が主眼かと思う。ただ、自宅にいる方々だけでなく働いている高齢者の家族も支えていく必要がある。介護に関わって仕事を中断する・退職するということがないようにするため、法律もかなり整備されてきているので、ぜひ、高齢者だけでなく、働いている家族の方々が疲弊しないような形での支援も併せて行っていただきたい。
- コロナ禍の中で感染防止対策を取りながら高齢者ふれあいサロン開催するのは、会場に制約があり非常に壁が厚い。グランドゴルフ等のスポーツについては実施できると思うが、サロンなどについては、地域によっては広い会場が確保できず開催できないところもあるのではないか。今の運用の現状を認識していただきたい。
- 特に、コロナの状況の中でこれまでとは同じような形で支援が行われたいということでは指標の組み方や、あるいは市が取り組んでいる事業だけではなく、様々な主体によって行われているものをどのように評価していくのかについて問題になってくると考える。
- コロナ禍の中で民生委員の方に非常に苦勞をかけているので、そこにも目を向ける必要がある。
- 短期集中型通所サービス事業は認知症になる前に有効だと思うが、その利用状況等の記載がない。短期集中型の通所サービスについて、PRをもっと進めて利用者が増えていくことを願う。
- 「介護予防ケアパス」について、その効果的な利用についての指標化や、あるいは中高年の引きこもりの支援についてアウトリーチ等による、引きこもらせないための働きかけが必要になってくるのではないか。
- 各事業において養成し、登録している様々な「ボランティア」や「サポーター」などのボランティア活動について、共通した登録、研修の仕組みを今後検討できないか。

キ 次期総合計画の策定に向けた意見

なし